

地域の重要な歴史的事実を伝える

公文書・古文書の 保存と利活用は どうあるべきか？

参加
無料

手話、要約筆記が
あります

講演と鼎談 ※詳細は裏面をご覧ください

◎講演 「歴史的に重要な
公文書・古文書の保存と利活用とは」

◎講師 早川 和宏 氏 (東洋大学教授・弁護士)

◎鼎談 「残された戦時記録が語り出す」

◎鼎談者 早川 和宏 氏
豊見山 和美 氏 (沖縄県公文書館アーキビスト)
喜多村 理子 氏 (鳥取短期大学非常勤講師)

鳥取県における歴史資料として重要な公文書等の保存等に関する条例(歴史公文書等保存条例)が、本年4月1日に施行されました。この条例は、歴史公文書等(歴史資料として重要な公文書その他の文書)は、県民の知る権利や地域の歴史を伝えるものとして価値のある知的資源であり、それぞれの保有主体が大切に保存して将来の世代に引き継ぐことを基本理念としています。保有主体である県、市町村、県民等の3者が、共に学ぶ場として、シンポジウムを開催します。

日時 平成29年**5月23日【火】** 午後1時30分から4時20分(午後1時受付開始)

場所 **とりぎん文化会館(第1会議室)** 鳥取市尚徳町101-5 電話:0857-21-8700
鳥取駅から徒歩約20分

〈お問い合わせ〉 **鳥取県立公文書館** 鳥取市尚徳町101 電話:0857-26-8160
電子メール kobunsho@pref.tottori.lg.jp

特別講演・鼎談講師 プロフィール



➤ 早川 和宏 (はやかわ かずひろ 東洋大学教授・弁護士)

平成12年3月成城大学大学院法学研究科博士課程後期単位取得退学。高岡法科大学、桐蔭法科大学院等を経て現職。全国歴史資料保存利用機関連絡協議会役員、日本アーカイブズ学会副会長、自治体の各種委員を務めるとともに、全国各地で情報公開、個人情報保護、公文書管理に関する講演を行う。近年の論文として「民間アーカイブズの保存活用を巡る法的課題—調査・収集を中心に—」、「地方公共団体における公文書管理条例制定の状況と特色」等がある。



➤ 豊見山 和美 (とみやま かずみ 沖縄県公文書館アーキビスト)

平成8年4月より沖縄県公文書館で専門職員として勤務。公文書館業務全般に携わる。公文書館学に加えて沖縄戦後史も専門領域とし、『沖縄県史』その他県内自治体史に執筆。最近の論文に「公文書館の展示業務を考える」(『沖縄県公文書館研究紀要第18号』2016年)、「『国民指導員計画』における女性たち」(『沖縄県史 各論編8 女性史』2016年)がある。所属は沖縄県公文書館指定管理者(公財)沖縄県文化振興会。



➤ 喜多村 理子 (きたむら りこ 鳥取短期大学非常勤講師)

昭和49年早稲田大学第一文学部日本史学科卒。子育てをしながら、島根大学大学院教育学研究科、大阪大学大学院文学研究科(文化形態論専攻)博士後期課程に通り、博士(文学)取得。鳥取県の市町村史、県史の編さんに関わる。単著に『徴兵・戦争と民衆』(吉川弘文館、1999年)、『神社祭祀とムラ社会』(岩田書院、1999年)がある。論文に「日清・日露戦争—戦時下の男性・女性・家族」(『軍国の女たち』吉川弘文館、2005年)等がある。

特別講演・鼎談

◎ 講演「歴史的に重要な公文書・古文書の保存と利活用とは」

講師は、公文書館が平成28年度に実施した「県立公文書館在り方検討会議」の座長として、新条例制定につながる報告書を作成された。会議の概要や新条例の理念、資料保存の重要性について講演していただく。

◎ 鼎談「残された戦時記録が語り出す」

公文書館が所蔵する『**兵事動員ニ関スル日誌**』は、軍の焼却命令を免れた全国的にも珍しい貴重公文書である。この日誌を題材に歴史公文書等の保存と利活用についての鼎談を行う。

豊見山氏には、米軍の上陸戦で資料を失った沖縄県が、地域資料の補てん(調査・収集)をどのように進めてきたか報告していただく。

戦時関係の「聞き取り」を精力的に行ってこられた喜多村氏には、『兵事動員ニ関スル日誌』の資料的価値について解説していただく。

早川氏には進行役として、報告と解説を受けて、さらに議論を深めていただく。



鳥取県立公文書館所蔵